

第1学年〇組 国語科学習指導案

春日部市立川辺小学校 教諭 阿部慎一郎

1 単元名 くらべてよもう・ずかんをつくろう

教材名 主な教材 『じどう車くらべ』（光村図書）

実施時期 平成29年11月中旬

学習者の学習歴

児童はこれまでに、教科書教材『くちばし』で、問いに対する答えをとらえること（「文章の構成」）、いくつの事例が説明されているかまとまりを考えて読むこと、事例と事例の共通点が説明の仕方の特徴であること（「事例の内容」）を学んでいる。事例どうしの共通点を見つける活動の中で「比較」の思考を扱った。本単元では、問いに対する答えをとらえること（「文章の構成」）、「そのために」という語の用法と「しごと」と「つくり」の因果関係を理解すること（「文章の内容」）を指導する。思考の方法として、今回は「比較」に加え「因果関係」の思考を重点的に扱う。

単元のゴールとして「ずかんづくり」を設定している。単元の導入時に、一方的に教師が「ずかんづくり」の課題を示すのではなく、単元の途中で課題を示す工夫を取り入れている。教材文を読解していく過程で、一つの「じどう車」に対して「しごと」を一つ、そのための「つくり」が二つ書かれているという、事例の共通点を読み取る。これが読み取れるようになってきた段階で、児童には「自分にも書けるかもしれない」という学びに向かう構えができる。その学びに向かう構えができた段階で、「じどう車ずかんをつくる」という学習のゴールを示す。

2 単元の学習目標

- ①知りたいことや興味をもったことに関する情報を得るために、事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読もうとしている。 （関心・意欲・態度）
- ②冒頭で示された問いに対して答えが列挙されている構成や、二つの問いに対して二つの答えで構成されていることに気を付けながら、文章を読むことができる。 （読むこと）
- ③簡単な構成を考え、文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文章を書くことができる。 （書くこと）
- ④言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いて文や文章を読んだり、書いたりすることができる。 （伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 書く能力	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・知りたいことや興味をもったことに関する情報を得るために、事物の仕組みなどについて説明した本や文章を進んで読もうとしている。	・何を説明しようとしているのか、説明対象の特徴はどのようなものかなどの説明の順序を考えている。	・事柄の順序や文章の構成上の順序などに気をつけながら読んでいる。	・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いて文や文章を読んだり、書いたりしている。
学習活動に即した評価規準	①自動車について知っていることを話したり聞いたりして、自動車に関する文章を進んで読もうとしている。 ②文章の構成や文章の内容などについて、学んだことを振り返っている。	①文のつながりに気を付けて、「しごと」と「つくり」を書いている。	①問いが何か、答えが幾つ書かれているか読み取っている。 ②問いに対する答えは何かを読み取っている。	①因果関係を表す「そのために」という語の使い方を理解している。

3 指導と評価の計画 (全 1 1 時間)

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○冒頭の一文を読んだり、絵を見たり、映像を見たりして、知っている自動車について出し合う。	○話題をとらえること	アの① ・発言の内容の分析や態度の観察
2	○通読し、「くちばし」や「うみのかくれんぼ」と本教材との共通点を考える。 ○既習教材を使って、「そのために」の用法を考える。	○文章の構成（「問い」の場所） ・「問い」が2つ ○表現技法 ・「○○か」が問いを表す ○「そのために」の用法 ・〈因果関係〉の思考	エの① オの① ・発言の内容の分析や態度の観察 ・ワークシートの観察
3	○出てくる自動車は「いくつか」、それは「何か」を出し合い、いくつかの事例が出てくるかをとらえる。	○文章の構成（事例の数） ・文章全体を読むこと	エの① ・ワークシートの観察
4		○文章の構成（問いと答え）	エの②
5	○「問い」に対する「答え」	・二つの問いに対して二つの答	・ワークシートの観察

6	を読み取る。	え（列挙型で示されている） ・「つくり」が二つであること ・〈比較〉の思考 ○文章のつながり ・「しごと」と「つくり」の関係性 ・〈因果関係〉の思考	・発言の内容の分析や態度の観察
7 (本時)	○「はしご車」の「しごと」と「つくり」を、考えて書く。	○文章の構成（問いと答え） ・二つの「問い」に対する二つの「答え」を書くこと	ウの① ・ワークシートの観察
8 9 10	○「じどう車ずかん」をつくるという単元のゴールを知り、自動車の図鑑や本から、書きたい自動車を選んで読む。 ○選んだ自動車について、「しごと」と「つくり」ととらえワークシートに書く。	○文章のつながり ・「しごと」と「つくり」の関係性 ・〈因果関係〉の思考	アの① ウの① ・ワークシートの観察 ・発言の内容の分析や態度の観察
11	○学習を振り返る。		アの② ・ノートへの記述の分析 ・発言の内容の分析や態度の観察

①第1時：いろいろな自動車を紹介している動画を視聴して、学習課題を知る。

・いろいろな自動車を歌に載せて紹介している動画を、「知っている自動車はいくつあるかな」と投げかけ視聴させた。歌に合わせて自動車の名前を歌う児童や、「この自動車、知ってる。見たことある。」という児童など、自動車という話題に対して興味をもたせることができたようである。そこで、これから学習する題名は「じどう車くらべ」だということに結び付けた。



◎動画を使って、教材の話題に迫るという方法は、児童の興味を引き出すことができた。これからの学習に対する見通しをもつこともできたのでないかと考えた。

〈付きたい力 4① 教材への興味・関心〉に関連
「主体的な学び」の視点（下線部）

- ・「出てくる自動車はいくつ？」の発問に対しては、「4つ」と答えた児童と「3つ」と答えた児童がいた。「4つ」と答えた児童は、自動車を「バス」「乗用車」「トラック」「クレーン車」と考えた。「3つ」と答えた児童は、「バスや乗用車」「トラック」「クレーン車」と考えた。自然な数え方であると「4つ」であるが、「3つ」と数えた児童の考えを聞くことが、筆者の事例の出し方につながる。「3つ」と考えた児童は、「バスや乗用車」は、「しごと」が同じだから。」と、その分け方を説明した。「問い」である「それぞれのじどう車は、どんなしごとをしていますか。」という文を踏まえて、「しごと」で自動車を分けたのである。ここで、教科書を使い、筆者は「バスや乗用車」を同じページに載せ、挿し絵も重ねて載せていることから、同じ「しごと」の自動車として、1つの事例であるという分け方をしていることを確認させた。

◎3つの事例を並列にし、構造的に読めるようにしたことで、自動車が一文目の冒頭で示されていることに気付くことができ、文章構成上の共通点に気づき、それを手がかりにしたり、繰り返し出てくる言葉に着目しながら、情報を精査して考えを形成することができた。また、「バス」と「乗用車」は自動車としては違うが、「や」で結ばれていて、同じ「しごと」として説明されていることから、一つの事例として扱われていることに気付いたことから、筆者の事例の挙げ方を考えて読むことができた。

〈付きたい力 1 事柄の順序や文章構成上の順序を考えながら読むことができる力
3 「学習用語」を使って考える力 〉に関連

「深い学び」の視点（下線部）

④第4～6時：「問い」に対する「答え」を読みとる。

- ・第4時は、「バスとじょうよう車」「トラック」「クレーン車」の3つの事例について、「どんなしごとをしていますか。」の問い①についての答えを探す活動を行った。
- ・第5時は、「そのために」の使い方の指導と、3つの事例について「どんなつくりになっていきますか。」の問い②についての答えを探す活動を行った。「そのために」の使い方としては、「しごと」と「つくり」が正対していないようなバッドモデルを提示し、児童に間違いを指摘させ、「そのために」は、「しごと」と「つくり」をつなぐはたらきがあることを確認した。

クレーン車	クレーン車はあもしもの あつり上げるしごとをしていま す。
バスやじょうよう車	じょうよう車はあもしもの あつり上げるしごとをしていま す。
トラック	トラックはあもしもの あつり上げるしごとをしていま す。

クレーン車	クレーン車はあもしもの あつり上げるしごとをしていま す。
バスやじょうよう車	バスやじょうよう車はあもしもの あつり上げるしごとをしていま す。
トラック	トラックはあもしもの あつり上げるしごとをしていま す。

クレーン車	クレーン車はあもしもの あつり上げるしごとをしていま す。
バスやじょうよう車	バスやじょうよう車はあもしもの あつり上げるしごとをしていま す。
トラック	トラックはあもしもの あつり上げるしごとをしていま す。

三つの事例を「クレーン」と「バス」と「トラック」として

- ・問い②の答えは、1つではなく2つあることも確認した。そして、3つの事例は全て、一文目に「自動車の名前」と「しごと」が、二文目は、「そのために」から始まり「つくり①」、三文目は、「つくり②」が書かれていることを視覚的にもとらえることができた。
- ・第6時は、3つの事例をそれぞれ1枚のワークシートに「しごと」と「つくり」を書きまとめる活動を行った。

◎3つの事例を並列にし、構造的に読めるようにしたことで、3つの事例は全て同じ構成で書かれていることに気付くことができた。また、全ての事例が「しごと」と「つくり」の文を、「そのために」でつないでいることも視覚的にもとらえることができた。文章構成上の共通点に気づき、それを手がかりにしたり、繰り返し出てくる言葉に着目しながら、情報を精査して考えを形成することができた。このことは、自分で好きな自動車を選んで、「しごと」と「つくり」を調べて書く活動を行う際に、文章の完成形のイメージ化を助けることになっているのではないかと考える。

〈付きたい力 1 事柄の順序や文章構成上の順序を考えながら読むことができる力
3 「学習用語」を使って考える力 〉に関連

「深い学び」の視点（下線部）

⑤第7時：「はしご車」の「しごと」と「つくり」を、考えて書く。

- ・『じどう車くらべ』で、自動車について説明している文章を、「しごと」と「つくり」をとらえて読むという活動を活かして、教材文に載っていない「はしご車」について、「しごと」と「つくり」を考えたり、調べたりして、説明する文章を書くという活動。

・本時の学習指導（7／11時）

(1) 目標

文のつながりに気を付けて、はしご車の「しごと」と「つくり」を捉えて書くことができる。

(2) 評価規準

文のつながりに気を付けて、はしご車の「しごと」と「つくり」を書いている。

(3) 展開

学 習 活 動	学 習 内 容	指 導 と 評 価 の 創 意 工 夫	時 間
1 「はしご車」の「つくり」と「しごと」を考える。	・「しごと」と「つくり」の分け方	○初めは「しごと」と「つくり」に分けずに、「はしご車」の特徴を発言できるようにする。 ○児童の発言を短冊に書いておくことで、「しごと」と「つくり」に分けられるようにする。 ○「つくり」の短冊については、長さや大きさなど、詳しい説明を付け加えるようにする。	5

2 本時の学習課題をつかむ。	・学習の見通し	○「しごと」と「つくり」が正対していないモデル文を提示することで、「しごと」と「つくり」の因果関係に着目させる。	5
どのようにせつめいすればよいのだろう。			
3 教師のモデル文を直す。	・「しごと」と「つくり」の繋げ方	○「しごと」を活かしたもの、「つくり」を活かしたものの二つの説明文に直すようにする。 ○学習活動1で児童から挙がっている「しごと」や「つくり」があれば、それを選ぶことができるようにする。	10
4 自分で「はしご車」を説明する文章を書く。 〈出させたい内容〉	・文と文のつながりに注意した書き方	○「しごと」と「つくり」は、挙がっている短冊の中から選んで書くようにする。	15
<p>はしご車は、かじのとき、たかいところにいる人をたすけるしごとをしています。</p> <p>そのために、ながいはしごがついています。人をのせるかごがついています。</p>		<p>ウの①文のつながりに気を付けて、「しごと」と「つくり」を書いている。 (ワークシートの観察)</p> <p>〈出させたい内容〉のような記述をしていれば、「おおむね満足できる状態である」と判断することができる。</p> <p>《手立て》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」と「つくり」を書くことができている児童には、図鑑を使って、他の自動車についても「しごと」と「つくり」を書くように促す。 ・「しごと」と「つくり」が書くことができていない児童には、「しごと」が記述されているワークシートを渡し、「つくり」については短冊から選ぶように助言する。 	
5 書いたものを隣どうしで読み合う。	・感想の伝え方	○「しごと」と「つくり」のつながりを見つけ、認め合えるようにする。	5
6 学習の振り返りをする。	・本時のまとめ	○(「しごと」と「つくり」を)「つながる」ように書くことが説明で大事であることを振り返ることができるようにする。	3
7 次時の予告をし、学習のゴールを知る。	・単元の見通し	○掲示してある「じどう車」の中で、説明することができたものを挙げさせ、残りの「じどう車」に目を向けさせるようにする。	2

